

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスSA-N-PO鶴見教室		
○保護者評価実施期間	7年1月18日		7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20 (回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2007年1月18日		2007年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	7年 2月 5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同法人内に他業種の会社があり、そこと連携を取ることで様々なイベントを行ったり、子ども達に経験して頂くことが出来る。	親子イベントとして法人内の農場で、田植え体験、稲刈り体験を企画し保護者間の交流や子ども達同士の交流また貴重な経験をできる場を提供していった。 また、ハロウィンイベントとして本社にて他業種の方々との交流をおこなった。	法人内以外の地域資源を活用し活動や交流の幅を広げる。 法人内のソースを活用し田植え、稲刈り以外の保護者同士の交流できる場を提供できるようにしていく。
2	管理栄養士と業務提携をしており、栄養に関して等の相談ができたり、おたよりを作成してもらい食事に対するアプローチができる。また法人内に児童発達支援施設、ヘルパーステーション、訪問看護ステーション、相談支援センター、日中支援型グループホーム シャアハウスなども運営しており、切れ目ない支援を行える体制作りを行っている。	月に1週間をクッキング週間を作っており、管理栄養士に來所してもらいメニューを見てもらったりアドバイスを頂くようにしている。相談支援員や居宅サービスなどの利用の際は法人内で協力体制が出来る様に努めている。	管理栄養士に栄養に関してのことを子ども達にわかるように説明してもらえよう依頼していく。 また、保護者から管理栄養士に質問ができるようホームページにお問合せフォームを作成し対応して頂けるよう調整している。お子様の支援を関係機関との連携体制を強化していく。
3	支援員一人一人の経験や考え、思いをそれぞれの得意分野で活動できる環境作りを設定している。	季節の行事や工作、イベントなど個々でアイデアを出し合い様々な視点から考えて活動に繋げている。	それぞれの考えた活動プログラムで話し合い、一貫した支援した支援に繋げていく。日々のミーティングの内容を支援に生かせるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援員の経験や知識に差があり、高い専門性を持って支援にあたることができていない。	支援員の入れ替わりがあり、事業所としての支援に対する共通理解を得て統一した支援をおこなうのに時間がかかる。	外部研修に受ける機会を設ける。また法人内で研修を受けることが出来るようにする。 また、事業所内で相談できるように話し合いの時間を増やす。
2	2階建ての建物で階段の上り下りが必要であり、危険がないように配慮が必要である。1階と2階に分かれて支援を行う際は支援員が2～3カ所の分かれることがあり連携がさらに必要となる。	支援員の配属、お子様の一日のスケジュールの確認など入念に確認を行う。	支援員の配置、一日の送迎、スケジュールを入念に確認し、今後も安全に努めていく。
3			